

Jugend Philharmoniker in Fukushima 2024

2024.9.8

Fukushima city concert hall

ごあいさつ

本日は、ユーゲント・フィルハーモニカー第4回福島公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。今回、5年ぶりに再び福島の地で演奏会を開催できることを大変嬉しく思っております。

今回の公演では、昨今の情勢で大編成の作品になかなか触れることが叶わなかった高校生、大学生の皆さんと共に、「大人数で奏でる音楽ならではの楽しみを共有したい」というコンセプトのもと合同ステージを企画しました。

クラシック音楽の王道でありながら、特殊楽器などの制約が多くなかなか演奏機会の少ないホルストの『惑星』から「火星」「木星」、そして福島の方からも根強い人気を誇る北欧の作曲家、シベリウスの名曲「フィンランディア」の2曲をお届けします。福島の若い世代の音楽家たちとユーゲント・フィルの化学反応をぜひお楽しみください。

また、演奏会の前半では当団の誇るオーボエ奏者、福田有花の美しいオーボエの音色と妙技を堪能できるリヒャルト・シュトラウスのオーボエ協奏曲、そしてこちらも団員の福島宏章がオルガン奏者を務め、サン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」を演奏いたします。ふくしん夢の音楽堂の素晴らしいオルガンの音色とユーゲント・フィルの大迫力のサウンドのコラボレーションにご期待ください。

最後になりましたが、演奏会にあたりご協力いただいた地元福島の多くの皆様、そしてご来場いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。今後とも当団の活動に対してご愛顧を賜りますよう、どうぞよろしく申し上げます。

ユーゲント・フィルハーモニカー 代表
三宅雅也

ユーゲント・フィルハーモニカー
第4回 福島公演

2024年9月8日(日) 13:15 開場 14:00 開演
ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂) 大ホール

プログラム

R.シュトラウス／オーボエ協奏曲

Richard Strauss: Concerto for Oboe and Small Orchestra, AV 144

C.サン＝サーンス／交響曲第3番 ハ短調 Op.78《オルガン付き》

Camille Saint-Saëns: Symphony No.3 in C-minor, Op.78

G.ホルスト／組曲《惑星》より「火星」「木星」

Gustav Holst: The Planets, Op. 32 - 1. Mars, the Bringer of War, 4. Jupiter, the Bringer of Jollity

J.シベリウス／交響詩《フィンランディア》

Jean Sibelius: Finlandia

オーボエ独奏＝福田有花

指揮＝安齋拓志

演奏中は携帯電話の電源をお切りください。
他のお客様のご迷惑となりますので、演奏中のお席の異動はご遠慮ください。



オーボエ独奏 福田有花

三重県出身。13歳よりオーボエを始め、2016年東京音楽大学を卒業。これまでにオーボエを宮澤香、山本直人、古部賢一、安原理喜、齋藤勇二に師事。ハンブルクにてパウルス・ファン・デア・メルヴェのマスタークラスを受講。また室内楽を四戸世紀、水野信行、宮本文昭に師事。第11回大阪国際音楽コンクール第2位。大学在学中にオーディション合格者によるソロ室内楽コンサート、堀米ゆづ子オーケストラアカデミー演奏旅行に出演。現在は商社に人事として勤務。2019年よりユージェント・フィルハーモニーカー団員。



指揮 安斎拓志

福島県出身。3歳よりピアノを故大内洋子氏に師事。福島県立福島高等学校管弦楽団でヴァイオリンを始め、これまでに木全利行、篠崎史紀の両氏に師事。立教大学交響楽団でコンサートマスターを務める傍ら指揮活動を始め、これまでに故佐藤功太郎、故湯浅勇治、河地良智の各氏らに師事。2006年にユージェント・フィルハーモニーカー創設。2012・2013年にアイドルグループ嵐のコンサート「アラフェス」のオーケストラと合唱を指揮。現在ユージェント・フィルハーモニーカー音楽監督。2017年からは全日本高等学校オーケストラ連盟の高校オーケストラ支援事業を担当し、青少年の音楽教育にも力を入れている。



ユーゲント・フィルハーモニカー

一般財団法人日本青年館と全日本高等学校オーケストラ連盟の音楽行事（全国高等学校選抜オーケストラフェスタ、全日本高等学校選抜オーケストラ・ヨーロッパ公演、日本ユングオーケストラ・ヨーロッパ公演）に参加したメンバーが中心となって2006年3月に創設された。全国各地の高校や大学オーケストラ出身のプレイヤー約80名が集まり、3月の定期演奏会を中心に、福祉施設や普段生のオーケストラに触れる機会のない農村への訪問演奏、地方公演、行楽施設の各種イベントやテレビ番組での依頼演奏など幅広い活動を行っている。音楽的に、そして人間的に成熟した団体作りに励みながら、「アマチュア・オケだからできること（≠プロオケには出来ないこと）」を追求している。

曲紹介

R.シュトラウス／オーボエ協奏曲 [1945]

その抜きん出た作曲技術と明晰な商才により、音楽界の名声を欲しいままに得た天才、リヒャルト・シュトラウス。そんな彼といえども、晩年は苦難に満ちていた。ナチス政権下での活動により複雑な評価を受けた彼は、財産の没収、並びに世間からのバッシングなどがあり、疲弊していた。

1945年の終戦直後、シュトラウスはアメリカのオーボエ奏者ジョン・デ・ランシーから、「オーボエ協奏曲を書く気はないか」と提案される。最初は「興味がない」と突っぱねた。しかしランシーが去った数ヶ月後に気が変わり、作曲に取り組み始める。いかにも彼らしい、斜に構えた創作態度である。

そうして生み出された本協奏曲は、時代的にはあまりにも古色蒼然な作風という批判もある。しかし、旋律の流麗さ、オーボエならではのフレージング、奇跡的な和声法、極限まで研ぎ澄まされた対位法、小編成でありつつ最大限効果的なオーケストレーション、どの面からも世紀の傑作と言って差し支えない。古典的な作曲理論を実践的に積み重ねた結果、誰も到達し得ない超前衛的作曲技法がそこかしこに散りばめられている。

ソロ・オーボエに求められる技術も過酷で、まずとにかくフレーズが長い。単調に吹いては退屈になるため表情をつけたいが、そもそも音符が多くてフレーズにするのが難しい。当然のように音域は限界まで用いられ、オーケストラとのアンサンブルもタイミングがシビアな箇所が多い。和声が複雑な分、運指もその分複雑になりがちで、音楽的にも精神的にも休まる暇が全くない。

本日のソリスト、福田有花はそんな技術的労苦を全く感じさせない美音を、リハーサル時から響かせている。またアンサンブルも実に緻密で、ユーグントの中での信頼関係を感じずにはいられない。単なるソリストと伴奏するオーケストラという関係性を超え、互いに濃密な時間を過ごしてきたからこそ育まれた音楽性、是非とも堪能してほしい。

第1楽章：Allegro moderato

第2楽章：Andante

第3楽章：Vivace - Allegro

C.サン＝サーンス／交響曲第3番 ハ短調 Op.78 《オルガン付き》 [1886]

サン＝サーンスはフランスに生まれ、その早熟な音楽的才能は「モーツァルトの再来」と称されるほどだった。

交響曲第3番「オルガン付き」は1886年に作曲された。彼の交響曲は5曲ほど書かれながら、今日知られているのはこの作品のみである。サン＝サーンスは本作を「私の一生の仕事の頂点」と語り、彼の創作活動の集大成とも言える仕上がりとなっている。

この交響曲の最大の特徴は、その副題にもある通り、オルガンを使用することである。サン＝サーンスは学生時代からオルガンの名手で、パリ音楽院卒業後20年間にわたり、パリのオルガニストとしては最高の地位といわれるマドレーヌ寺院のオルガニストを務めた。オルガンが持つ神聖さと荘厳さを、最大限効果的に用いつつ、オーケストラとの調和を追求している。

作品は二つの大きな部分に分かれ、それぞれがさらに二つの楽章に分かれている。冒頭で提示される主題が楽曲全体を通じて繰り返し登場する、循環形式と呼ばれる作曲技法を用いている。

当時、ワーグナーやベルリオーズによる管弦楽の拡大、チャイコフスキーやドヴォルザークの国民楽派の台頭など、革新的な作曲技法がもてはやされつつあった。そうした時勢においてサン＝サーンスは、ロマン的な発想を基にするのではなく、あくまで音楽形式そのものの美しさを追求していたのである。その頑固だが誠実な創作態度が、結局は真に革新的な作品の結実に至った。

[第1楽章] (第1部) Adagio – Allegro moderato (第2部) poco Adagio

通常の4楽章交響曲の、最初のふたつの楽章の性格を持つ。第1部は荘厳で神秘的な序奏から始まり、続いて活発なアレグロが展開される。オーケストラとオルガンが互いに対話しながら、壮大な音楽を築き上げていく。第2部の冒頭、アダージョの部分では、オルガンが静かに響き渡り、美しい旋律主題が流れる。この主題は、次の楽章でも関連し変形して登場することになる。

[第2楽章] (第1部) Allegro moderato - Presto (第2部) Maestoso – Allegro

続く第2楽章の第1部は、スケルツォ風の性格をもち、切迫感あるmoderato主題と、快活さ溢れるPresto主題から成り立っている。リズムカルな両方の主題が相互に展開されると、やがて低音に新しい主題が登場し、これは前Adagio楽章の旋律と関連している。それぞれの主題がカノンのように積み重なり、一旦制止すると、突如オルガンが再び力強く響き渡る。このオルガンを契機に第2部が開始される。第1楽章でみられた旋律各種が、対位的に展開されてクライマックスが築かれていく。

G.ホルスト／組曲《惑星》より「火星」「木星」 [1914-1916]

ホルストは音楽家一家に生まれるも、彼自身は生まれつき神経炎を患っていた。そのため、ピアノやヴァイオリンを習うも大成する事はなかった。また喘息も患っており、その療養の一環としてトロンボーンを始めた。この楽器の習得により、後に軍楽バンドなどで仕事をする機会を得る。しかしホルストは作曲家を志していたため、合奏の中でトロンボーンを演奏し、興味のない楽曲と接することはどうやら苦痛だったらしい。

30歳手前で演奏の仕事に区切りをつける決意をしたホルストは、最終的に中学・高等学校の教員になる道を選んだ。1905年から1934年に没するまで、セント・ポール女学校に勤める。

本作は本日、高校生と共演する曲目として演奏されるが、実際にホルストが中高生と関わりの深い人生を送っていたことを思うと、奇妙ながら深い縁を感じる。

組曲「惑星」は、ホルストが占星術に興味を持っていたことがきっかけで作曲された。本作は第一次世界大戦の世相と全く関係がないが、初演のきっかけはホルストが軍に招集された事だった。1919年、その従軍先で一般向けに初演され、それが布石となって終戦後、ホルストは「惑星」と共に世界的に名声を博す事になる。

火星 - 戦争をもたらす者。4分の5拍子の中で打たれる、一定なリズムの執拗な繰り返しと、不穏な和声感が特徴的である。また金管楽器の派手で効果的な使い方は、自身のトロンボーン演奏経験が活きているといえる。

木星 - 快楽をもたらす者。組曲の中でも最も明るく楽観的な楽章である。壮大で祝祭的な雰囲気を持つメロディが次々と現れ、特に中間部で現れる荘厳なメロディは、後に「希望と栄光の国」としてイギリスの愛国歌に採用されるほど有名である。この華やかなさは組曲全体の終楽章としても相応しそうなものだが、「人生と芸術は必ずしもハッピーエンドではない」というホルストの信条の元、そうなのではない。

J.シベリウス／交響詩《フィンランディア》[1899]

シベリウスは、フィンランドの国民的作曲家である。1899年に作曲された交響詩「フィンランディア」は、フィンランドの独立運動と深く結びいた、シベリウスの代表的作品の一つである。フィンランドは1809年以降ロシアに服属していたが、ロシア皇帝ニコライ2世が1894年に即位した後、国内の自治の侵害が強まった。こうした政治的な背景の中で、フィンランド国民の間には愛国独立運動が激しく高まった。

この運動の中で、文化的行事を催し国民の愛国心を高め、その収益を独立運動の資金に充てる試みがなされた。シベリウスは音楽家として参加し、音楽劇「フィンランド歴史的場面」の一部として作曲された作品が「フィンランディア」である。

曲は金管楽器が奏でる、アンダンテ・ソステヌートの重々しい「苦難のモチーフ」で始まる。このモチーフを受けて木管と弦が、民衆が悲嘆するかのような旋律を奏でるが、やがて決然と、「闘争への呼びかけのモチーフ」がティンパニと金管楽器によりうち鳴らされる。クライマックスまで到達すると、民謡風の主題が次に現れる。この部分は後に独立した楽曲として歌詞が付けられ、フィンランドの愛国歌として親しまれるようになった。

圧政に打ち勝ち、自治を勝ち取るフィンランド国民。この構図は、コロナ禍という苦難を経て、ようやく福島公演を開催するに至ったユージェント・フィルの道のりとも通ずるものがある。

ユーゲント・フィルハーモニカーと福島のあゆみ

第1回福島公演

2017年8月12日(土) 福島市音楽堂 大ホール

R.ワーグナー：楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》第1幕への前奏曲

C.サン・サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ 作品28 *

P.チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品64

[アンコール] J.シベリウス：交響詩《フィンランディア》作品26

*ヴァイオリン独奏=湯田茜音



「アマチュアオーケストラが社会にどのように貢献できるのかを模索する」という理念を掲げるユーゲント・フィルは、本拠地の関東近郊で開催している毎年の定期演奏会だけではなく、農村地域・養護施設・避難所といった様々な場への訪問演奏でその理念を追求してきました。2017年は去る大震災から6年目、福島県出身の団員を多く擁するユーゲント・フィルとして、復興しつつある故郷に何らかの恩返しができないかとの思いから着想し、第1回の演奏会を実施しました。

ヴァイオリン独奏には、当時福島高等学校管弦楽団2年、2015年日本学校合奏コンクールソロ部門最高位を受賞した湯田茜音を招きました。現在は当団団員として活動中です。



第1回福島公演
パンフレット

第2回福島公演

2018年9月23日(日) 福島市音楽堂 大ホール

D.ショスタコーヴィチ：祝典序曲 作品96

特別出演=福島県立橋高等学校管弦楽部 金管セクション

S.ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 作品18 *

P.チャイコフスキー：交響曲第6番《悲愴》作品74

[アンコール] G.ブッチェーニ：歌劇《マノンレスコー》より間奏曲

*ピアノ独奏=結城奈央



2度目の演奏会にあたり、演奏会の意義を再度見つめ直し、新しい世代への音楽を通じた貢献のあり方を模索したいとの考えから、橋高等学校管弦楽部金管セクションの皆さんをお招きして共演を実施しました。交流を通じて、アマチュアとして音楽を楽しむことの素晴らしさが、年齢や地域によらない普遍的なものであるということを実感することができました。

またピアノ協奏曲では、福島市出身で第17回ブラームス国際コンクール優勝など国際的に活躍する結城奈央氏を迎え、旧知の仲である当団音楽監督の安齋拓志と息の合った競演を繰り広げました。



第2回福島公演
パンフレット

演奏中は、過去演奏会のパンフレットデータ及び動画の閲覧はご遠慮ください。

第3回福島公演

2019年8月11日(日) ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂) 大ホール

L.ベートーヴェン：交響曲第7番イ長調 作品92
A.ドヴォルザーク：交響曲第8番ト長調 作品88
P.チャイコフスキー：荘厳序曲「1812年」作品48
特別出演=福島県内高校オーケストラ部・弦楽合奏部有志
[アンコール] E.エルガー：行進曲《威風堂々》第1番 作品39

3度目となった公演では、第2回で実施した高校生の皆さんとの共演をより多くの高校に拡大し、弦・管・打と多岐に渡る10名以上の参加者の皆さんとの共演が実現しました。また、アンコールでは当団ヴァイオリンパートの団員で、パイプオルガンの演奏にも長ける福島宏章がオルガン奏者として加わりました(福島は本日の公演でもパイプオルガンを担当します)。

この頃には、福島県出身の団員のみならず、それまで福島と縁のなかった団員たちも福島を訪れることを楽しみにしていました。福島公演がきっかけで、毎年プライベートで福島へ旅行をするようになったという団員もいるほどでした。また、繰り返し演奏会にお越しいただく地元のお客様も増え、次回も楽しみにしているというお声も多く頂戴するようになりました。

感染症の拡大と5年間の公演中止

4度目の訪問をまさに計画していた2020年春、新型コロナウイルス感染症の拡大が発生しました。多くの音楽団体同様にユージェント・フィルも演奏活動を大きく制限され、特にこの福島公演は大きな打撃を受けました。福島市での演奏会を検討し会場の予約を実施するも、社会情勢やお客様の安全を考慮した結果、公演中止とせざるを得ない期間が数年間続きました。

福島への訪問が叶わず苦しい思いの中ではありましたが、2020年10月、当団にとって1年振りの有観客公演として実施した第1回特別演奏会(東京都小平市 ルネこだいら)は、第4回福島公演の代替公演と銘打って開催しました。演奏会の全編は当団のYouTubeチャンネルでも配信を実施し、福島でユージェント・フィルの演奏をお待ちいただいていた多くのお客様にオンラインで演奏をお届けしました。

そして、

＼ 本日5年ぶりの「第4回福島公演」 /

5年の苦難を乗り越え、満を持してユージェント・フィルが福島に『帰って』きました。
団員一同、再び音楽堂のステージに立てる喜びを胸に、心を込めて演奏させていただきます。



演奏会後は団員みんなで
桃狩りへ



第3回福島公演
パンフレット



第1回特別演奏会
全編映像

本日は、私どもの演奏会にご来場いただき誠にありがとうございました。
今後の演奏活動の参考にさせていただきますので、
皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。
QRコードまたは下記URLよりアクセスいただきご回答ください。



<https://forms.gle/cKWYFUBAEtf2TNb2A>

次回の演奏会

第19回定期演奏会

2025年3月8日(土) 昼公演

ミュゼザ川崎シンフォニーホール

G. マーラー：交響曲第9番 ニ長調

指揮 = 田中一嘉

<http://jugend-phil.com>

Twitter @jugend_phil

Facebook www.facebook.com/jugendphil

Instagram @jugend_phil

YouTube www.youtube.com/user/jugendphil